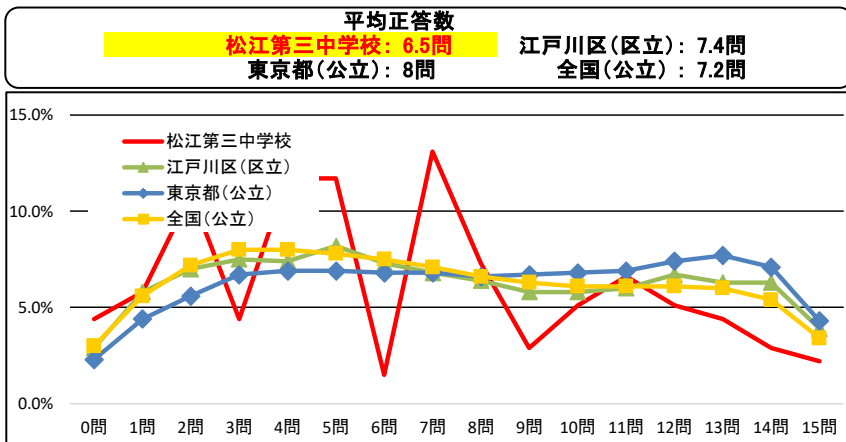


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【数学】 松江第三中学校

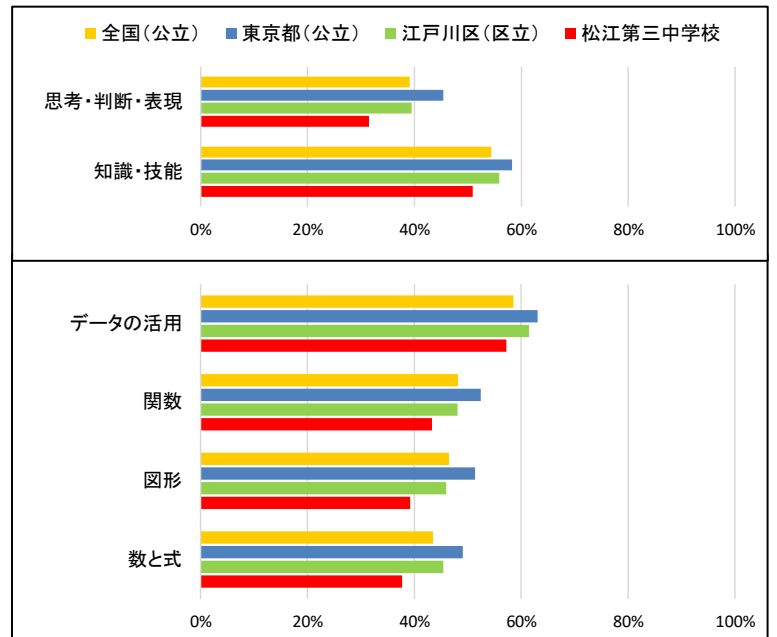
正答数分布



【平均正答率の差】

松江第三中学校	43%
江戸川区(区立)	49%
東京都(公立)	53%
全国(公立)	48.3%
都との差(ポイント)	-10.0

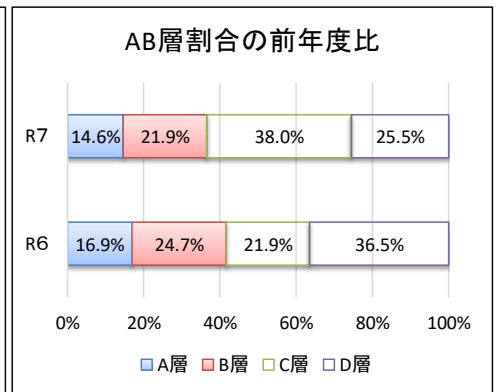
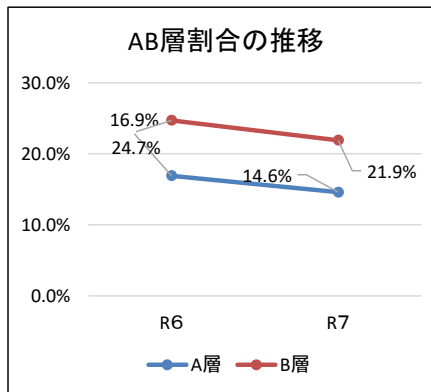
「領域別」の結果



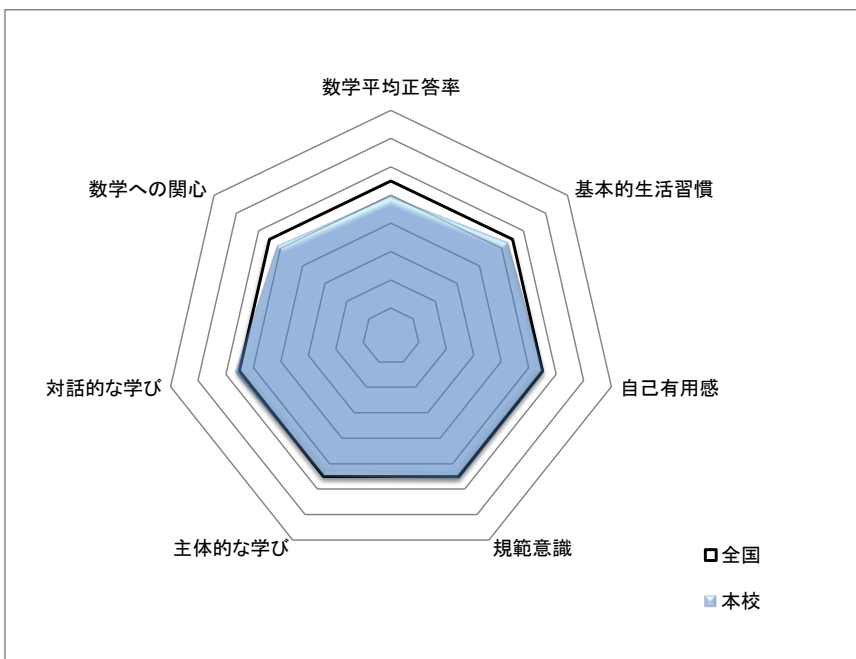
四分位における割合 (都全体の四分位による)

数学	上位 ← 下位			
	A層 12~15問	B層 8~11問	C層 4~7問	D層 0~3問
松江第三中学校	14.6%	21.9%	38.0%	25.5%
江戸川区(区立)	23.2%	24.0%	29.6%	23.2%
東京都(公立)	26.5%	27.0%	27.5%	19.0%
全国(公立)	20.9%	25.1%	30.2%	23.8%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

・基本的な生活習慣、自己有用感、規範意識についてはほぼ全国平均と変わらない結果だった。数学への関心や平均正答率については、全国平均をやや下回る結果となっている。

《家庭・地域への働きかけ》

・基本的な生活習慣については、家庭での指導が行き届いており、全体的に問題のある状況ではない。生徒が元気に登校できるよう、今後も規則正しい生活習慣を身に付けさせてほしい。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について
 ・AB層の割合は前年度(令和6年度)と比べるとやや減少している。しかし、CD層に着目してみると、D層が大幅に減少して、C層が増加する形になっている。
 ・領域別に見てみると「知識・技能」の部分は全国と比べても大きく差は見られないが、「思考・判断・表現」は全国と大きく差が離れてしまっている。
 ・授業規律は全体的に良く、少人数で授業に取り組むことで基礎学力の向上は見られたものの、考えを伝えたり表現する場面では、消極的な部分も見受けられた。

《学校の取組》

・教員の指導力向上
 ・今年度は指導と評価の一体化を進めるため、①授業開始時点での学習目標(めあて)の明示すること、②学習目標の達成状況を生徒自身が振り返る時間(5分間)を確保することの2つを重点課題として指導の改善を図った。
 ・校内研究授業を年間3回実施し、上記の重点課題について授業者と参観者とで意見交流を行った。また、外部の講師をお呼びし、授業を見ていただいた上で、授業改善に向けた指導と助言を頂いた。

・基礎学力の保障

・習熟度別少人数学習に取り組むことで、生徒の学習意欲を保ち、基礎学力を向上させることができた。
 ・年間を通して、単元ごとの小テストで知識の習得状況を確認しコンテスト形式で基本的な計算問題を確実に解く力を身につける取り組みをしている。

・学習習慣の確立

・「江戸川っ子Study Week!」において、ミライシード(ICT)を利用して数学に関する知識・技能の定着を図る学習に取り組ませる。
 ・単元ごとの小テストを行い、知識の習得状況を確認することで、生徒に計画的に学習に取り組む習慣を身につけた。

・AB層の育成

・「知識・技能」の領域に力がついてきた分、その知識を表現するための授業の中での意見交換やグループワークの時間を多く設けるようにする。
 ・グループワークを充実させるために「教えて考えさせる授業」の実践に取り組み、AB層の生徒は表現力の向上のために相手に説明するなど表現するために時間を多く設ける。